（第３種郵便物認可）　大分合同新聞

春うらら 映える景色

県沿岸1周 カヌーの旅

（随時掲載）

杵築・奈多海岸～国東・黒津崎

今回は杵築市の奈多海岸から、大分空港をぐるっと回り、安岐、武蔵町を経て、国東町黒津崎までの約19キロのコースを紹介する。

杵築市奈多海岸を出発するＳ氏

「なぎ」…軽快に北上

アウトランドカヌー部のＳ氏と2人で奈多海岸を午前11時に出発。すぐに市杵島脇を過ぎ、消波ブロックに沿って一路北へ進んでいく。天気は快晴。とても気持ちがいい。手には岸辺に打ちつける波の音だけ。とてものどかだ。今日は、いわゆる「なぎ」で、まったくのカヌー日和といっていいだろう。パドルをこぐ手がやけに軽快だ。

約30分後、志口の海岸前を通過。海水はずっと美しく、海底がよく見える。その後約10分で、三方庚申鼻（直前の隠れ岩には注意）。岩礁と自然林のコントラストが見事。一直線に並んでいる誘導灯トクリア。海上に誘導灯トクリア。海上に

ことはなかった。頭上にはウミネコの鳴き声。左へ進んでいく。天気は快晴。とても気持ちがいい。手には岸辺に打ちつける波の音だけ。とてものどかだ。今日は、いわゆる「なぎ」で、まったくのカヌー日和といっていいだろう。パドルをこぐ手がやけに軽快だ。

約30分後、志口の海岸前を通過。海水はずっと美しく、海底がよく見える。その後約10分で、三方庚申鼻（直前の隠れ岩には注意）。岩礁と自然林のコントラストが見事。一直線に並んでいる誘導灯トクリア。海上に

いい。

約5分で、浜の海岸に出る。夏は海水浴客でにぎわうポイントだ。のんびりとこぎ進み、約15分で最後の消波ブロック群。約3分後、安岐大橋先の突堤を通過。その約5分後、楓江大橋の突堤からはいよいよ大分空港に向かう。

スピードを上げ、約5分で一気に飛行場南西角に到着。その後約3分で、

が、一気に通過した方がいいことを祈り、さらにスピードを上げる。

約3分後の南東角で小休止。海面に目をやると、茶色の海藻とクラゲが漂っている。この後、延々と左に飛行場、右にコバルトブルーの海といった景色が続く。頭上ではヒバリが鳴いていた。

約15分で安岐と武蔵の町境。その約30分後、ようやくといった感じで空港の北東角に。この間、10機以上が飛び立った。ここからは、武蔵港の赤灯台を目指して進む。左には小城山が見える。

ところで、カヌーは横波にはとても弱い構造。

が、岬周辺は波の状態が不規則なので、風景に見とれていたいところだが、一気に通過した方がいいことを祈り、さらにスピードを上げる。

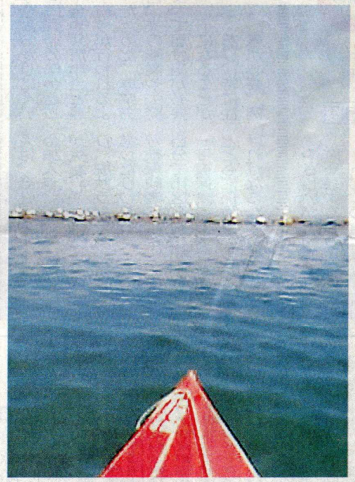
約3分後の南東角で小休止。海面に目をやると、茶色の海藻とクラゲが漂っている。この後、延々と左に飛行場、右にコバルトブルーの海といった景色が続く。頭上ではヒバリが鳴いていた。

約15分で安岐と武蔵の町境。その約30分後、ようやくといった感じで空港の北東角に。この間、10機以上が飛び立った。ここからは、武蔵港の赤灯台を目指して進む。左には小城山が見える。

ところで、カヌーは横波にはとても弱い構造。

最も着陸地点に近いので、飛行機が飛んでこなかだ。今日は、いわゆる「なぎ」で、まったくのカヌー日和といっていいだろう。パドルをこぐ手がやけに軽快だ。

約30分後、志口の海岸前を通過。海水はずっと美しく、海底がよく見える。その後約10分で、三方庚申鼻（直前の隠れ岩には注意）。岩礁と自然林のコントラストが見事。一直線に並んでいる誘導灯トクリア。海上に



水没した消波ブロック上のカモメたち

景色が続く。頭上ではヒバリが鳴いていた。

約15分で安岐と武蔵の町境。その約30分後、よいよ大きく見えてくる。

スタートして約3時間30分で、ゴールの下治郎丸の漁港着。春の東国東方面のカヌー旅は、すべてが穏やかだった。無口なＳ氏の満足げな表情が印象的だった。＝アウトランドクラブ「アウトランド」カヌー部（大分市）

波の影響を受ける。そのような時は、面倒だが、艇を波に向かって直角に立て直すと安全にやり過ごすことができる。

約10分で赤灯台。正面にはゴールの黒津崎の岬がようやく見えてきた。

約10分後、藤本の海岸着。相変わらずのどかだ。この後、美しい砂浜と松並木が続く。約5分で内田の海岸。その約10分後、重藤の海岸と、いつの間にか国東町に入っていた。約20分後、黒津崎のホテルや工場などがいよいよ大きく見えてくる。

スタートして約3時間30分で、ゴールの下治郎丸の漁港着。春の東国東方面のカヌー旅は、すべてが穏やかだった。無口なＳ氏の満足げな表情が印象的だった。＝アウトランドクラブ「アウトランド」カヌー部（大分市）

あなたの情報、質問を待っています

係では、①釣り随想「太公望」②旅行記「あの町こんな思い出」募集しています。

①は釣りに関連した話や思い出話を600字程度で。②は、旅に関連した話や、印象に残ったひとこまをエッセー風にまとめて。なるべく最近の旅で、気軽に行ける県内、国内旅行記を待っています。原稿は600字程度で、写真を1枚付けて（写真の裏に説明を書くこと。写真は原則として返却しません）。

①②とも、住所・氏名・年齢・電話番号を明記して、〒870―8605、大分合同新聞社文化部レジャー係あて。規定に沿わない投稿は採用しない場合があります。